

食料安全保障としての 食料品アクセス問題

農林水産政策研究所
高橋克也・丸山優樹

食料安全保障とは

食料安全保障は、全ての人が、いかなる時にも、活動的で健康的な生活に必要な食生活上のニーズと嗜好を満たすために、十分に安全かつ栄養ある食料を、物理的にも社会的にも経済的にも入手可能であるときに達成される。(FAO2002)

1. 食料の供給 (availability)

2. アクセス (access)

3. 利用 (utilization)

4. 安定性 (stability)

2. 食料品アクセス問題の多面性

a. 全国・マクロ分析

- アクセス困難人口の推計

→どこに・どれだけ？

b. 個人・ミクロ分析

- 買い物の不便と食品摂取の関係

→誰が・どんな状態か？

c. 地域・ローカル分析

- アクセス環境と利用者意識
- 住民意識の抽出

→どう解決するか？

マクロな視点

アクセスマップによる物理的側面からの評価

3. (2020年)アクセス困難人口の定義

店舗(ドラッグストア・コンビニ・食料品スーパー等・生鮮食料品販売店舗)まで500m以上、かつ自動車利用が困難な65歳以上高齢者

- ・・・アクセスマップの推計からアクセス困難人口算出
→客観的指標として、定量化、可視化が可能

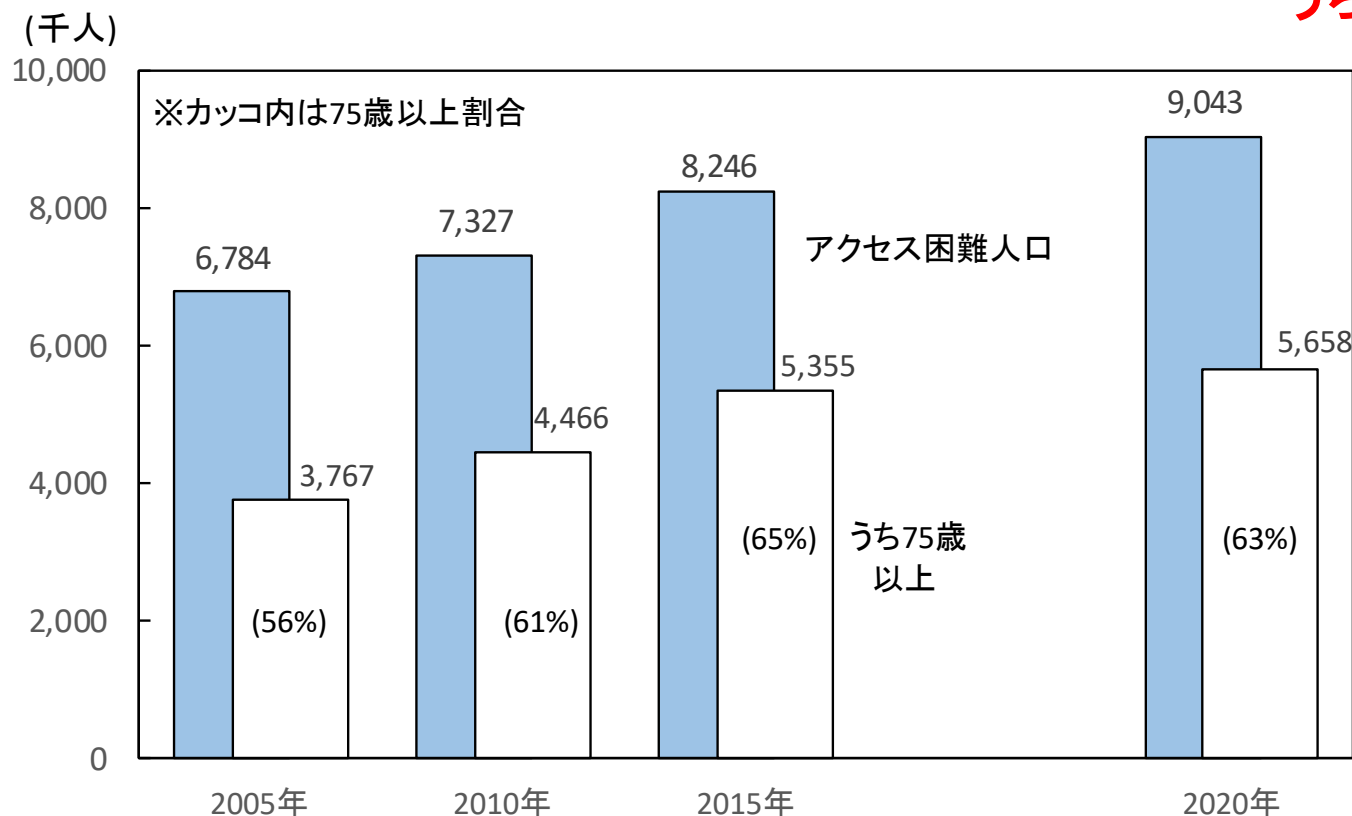
アクセス困難人口とは

→店舗、(高齢者)自動車利用、(高齢者)人口で規定

※以下、アクセス困難人口(困難人口)、アクセス困難人口割合(人口割合と略)

4. 2020年困難人口の推計結果

困難人口904万人
うち75歳以上656万人



(比較できないが)
15年比9.7%増加

75歳以上に偏り
(人口比52%)

図＊. 食料品アクセス困難人口の推移(年齢階層別)

2015年以前とは
連続しない！

資料: 農林水産政策研究所

注1) アクセス困難人口とは、店舗まで500m以上かつ自動車利用困難な65歳以上高齢者を指す。

2) 2020年は「令和2年国勢調査メッシュ統計」および店舗の所在地が分かるデータ等を用いて推計したものである。

3) 2020年の店舗は、食肉、鮮魚、果実・野菜小売業、百貨店、総合スーパー、食料品スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアである。

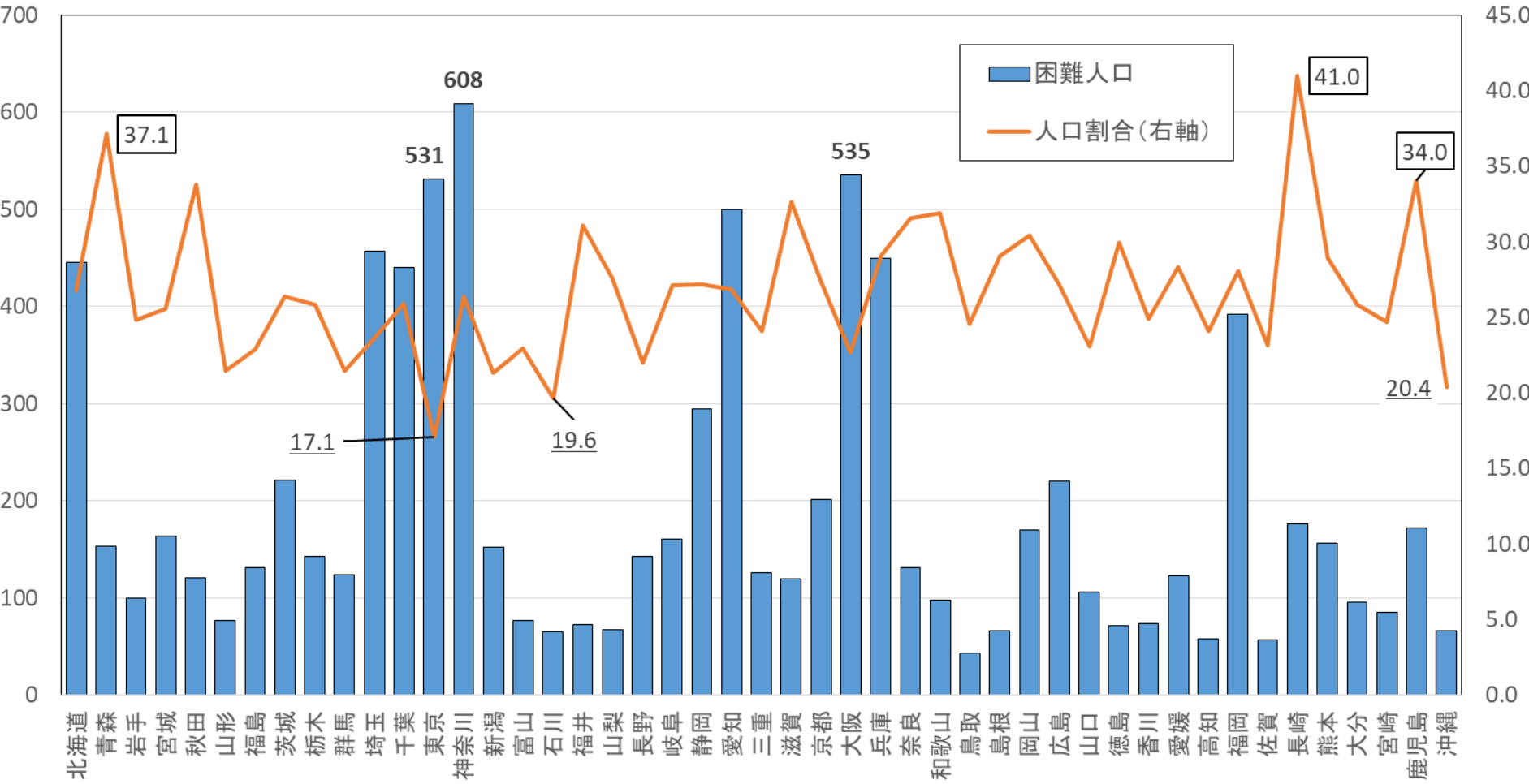
4) 東京圏は東京、埼玉、千葉、神奈川、名古屋圏は愛知、岐阜、三重、大阪圏は大阪、京都、兵庫、奈良である。

5) ラウンドのため合計が一致しない場合がある。

6) 2015年以前と2020年はデータが異なるため連続しない。

(千人)

(%)



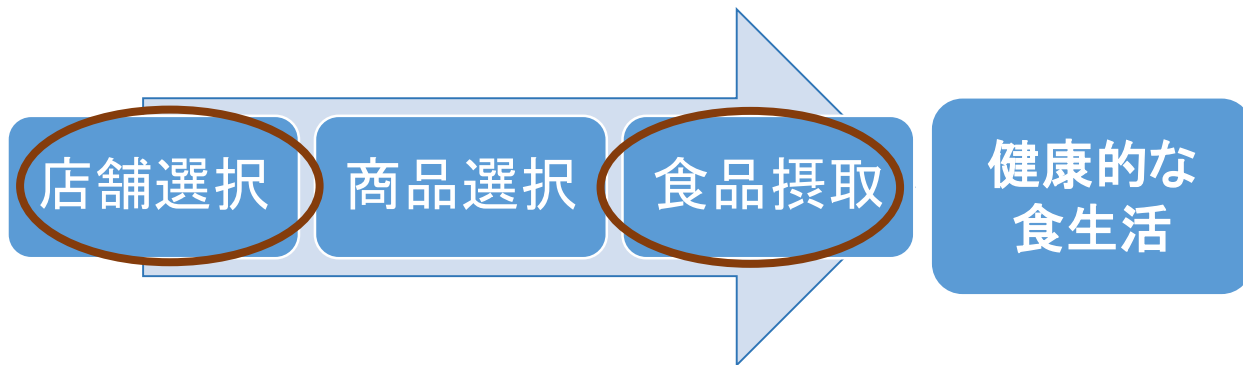
2020年困難人口・人口割合

ミクロな視点

中山間地域での高齢者の食品摂取

はじめに：食料品アクセスをとりまく現状

- ・薬師寺（2015）：買物の不便があると食生活に偏りが生じる可能性



目的：中山間地域における高齢者の食品摂取の実態を把握

- ・介護予防・日常生活圏域二エズ調査（実施主体：厚生労働省）
〔 3年毎に、要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで、地域の抱える課題を特定することを目的 〕
- ・2023年1月に鳥取県日南町に居住する65歳以上の高齢者を対象
- ・有効回答数：876件（回答率：77.5%）

質問項目

□ 食品摂取の多様性の把握

- ・ 高齢者の食事の構成食品を食品摂取の多様性得点で測定
- ・ 得点が高い：
➡たんぱく質やビタミン、ミネラルを多く含むおかずを中心

とした「栄養素密度の高い食事」を反映

・ 先行研究に則り（熊谷2003）、「毎日食べる」「2日に1回」「1週間に1～2回」「ほとんど食べない」の合計点を用いて食品摂取の多様性得点を算出

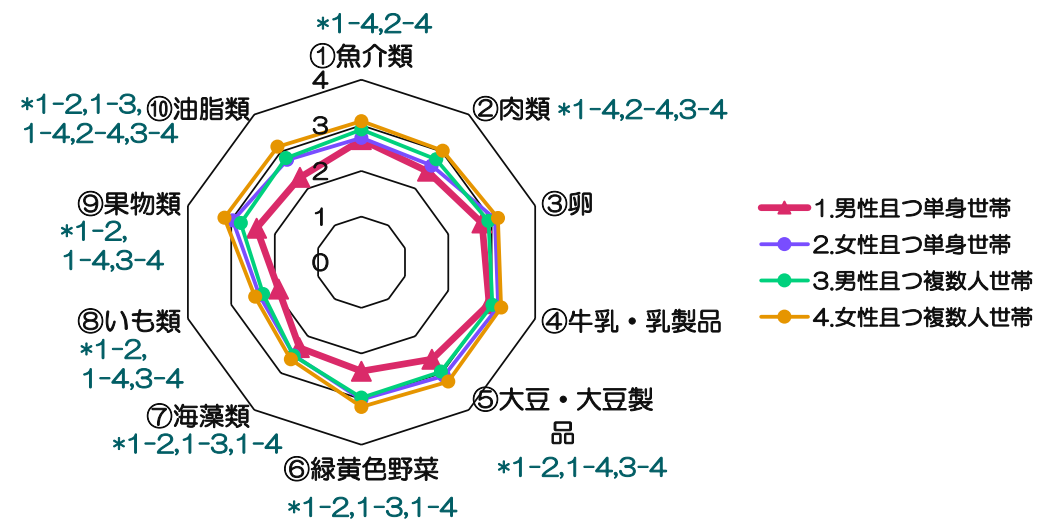
問5 ふだんの食生活についてお伺いします。次にあげる10食品群を週に何日ぐらい食べますか。①～⑩それぞれに回答してください。
なお、ここでいう食品とは、冷凍食品等の加工食品、弁当や惣菜、外食を含む普段の食事の主菜や副菜を指します。

	ほとんど毎日	2日に1回	1週間に1～2回	ほとんど食べない
① 魚介類 (生鮮、加工品を問わず全ての魚介類です)	1	2	3	4
② 肉類 (生鮮、加工品を問わず全ての肉類です)	1	2	3	4
③ 卵 (鶏卵、うずら等の卵で、魚卵は含みません)	1	2	3	4
④ 牛乳・乳製品(コーヒー牛乳、フルーツ牛乳は含みません)	1	2	3	4
⑤ 大豆・大豆製品 (豆腐、納豆等の大豆を使った食品です)	1	2	3	4
⑥ 緑黄色野菜(にんじん、ほうれん草、かぼちゃ、トマト等の色の濃い野菜です)	1	2	3	4
⑦ 海藻類 (生、乾物を問いません)	1	2	3	4
⑧ いも類	1	2	3	4
⑨ 果物類 (生鮮、缶詰を問いません。トマトは含みません)	1	2	3	4
⑩ 油脂類(油炒め、天ぷら、フライ、パンに塗るバターやマーガリン等油を使う料理です)	1	2	3	4

結果： 性別・世帯別、買い物不便の有無での比較

□ 高齢者の品目別食品摂取の状況

- ほとんどの食品で男性単身世帯の平均値が低い



※Bonferroni法の結果、1%水準で有意差がみられたものに*を付した
*の後ろの数字は、2つの選択肢の間で有意差がみられたことを示す

- 「毎日食べる」4点、「2日に1回」3点、「1週間に1～2回」2点、「ほとんど食べない」0点として平均値を図示した

まとめと今後の課題

□ 中山間地域の高齢者における食品摂取の特徴

- 単身男性が食品摂取に課題を抱えている可能性

□ 高齢単身男性の買い物手段

- 自動車で食料品調達を行い、宅配生協や移動販売車の利用割合が低い

- 社会的つながりが脆弱

買い物サービスを利用することにより食品摂取の多様性が維持（菊島，2018）

⇒ 他の買い物手段（買い物サービス）に触れる機会を提供

- 買い物手段の充実と食生活（食品摂取の多様性）の関係性は不明慮

- 買い物手段を選択した背景・経緯について明らかにすることで、課題を抱える高齢者の食生活の改善の糸口が見つかる

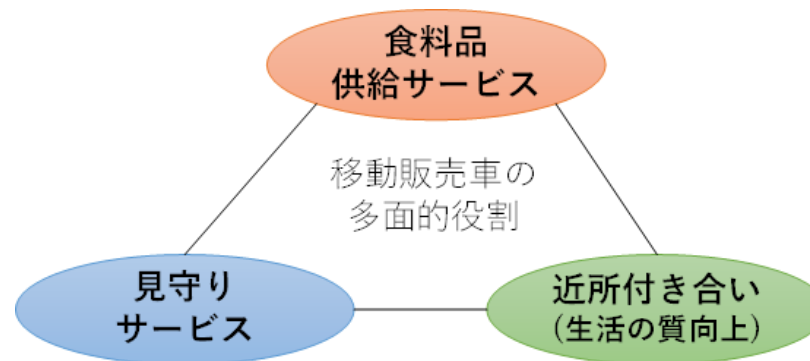
ローカルな視点

移動販売車による「食」と「福祉」の機能

はじめに

- 移動販売車はアクセス環境の改善手段のひとつ

- 移動販売のもつ多面的機能（谷本ら，2015）
 - 見守り(安否確認)
 - 近所付き合い（生活の質の向上）（例：購買行動や会話、相談等）



目的：移動販売サービスによる、食料品供給機能を含めた機能全体の中で、生活の質の向上といった多面的機能が重要視されているのかを定量的に評価

調査: 鳥取県日野町を対象

- ・ 消費者アンケート調査を実施 (2023年1月から5月)
- ・ 対象者：主たる利用者である65歳以上の高齢者
- ・ 移動販売サービスに対する利用者の選好評価
⇒ベスト・ワースト・スケーリング (Louviere et al., 2015)

回答者が現在の移動販売サービスを利用する際に、
「もっとも気にする機能」と「もっとも気にしていない機能」
を設問内から1つずつ選択



写真: 発表者撮影

	移動販売車の機能	意味
1	訪問頻度・時間	現在の移動販売車が自宅を訪問する頻度と訪問時間を示します。
2	販売員との会話	移動販売車が訪問した際の販売員との商品や日常に関する会話を示します。
3	品揃え	食料品だけでなく日用品も含めて、現在販売されている商品数を示します。
4	生鮮品の鮮度	現在販売されている魚や肉、野菜などの生鮮品の鮮度(新鮮さ)を示します。
5	御用聞き・個別宅配	移動販売車が訪問した際に、簡単な家事や修理などを頼めることや個別宅配を示します。

最も気にしている機能	移動販売車の機能	最も気にしていない機能
	訪問頻度・時間	
✓	販売員との会話	
	品揃え	
	生鮮品の鮮度	✓

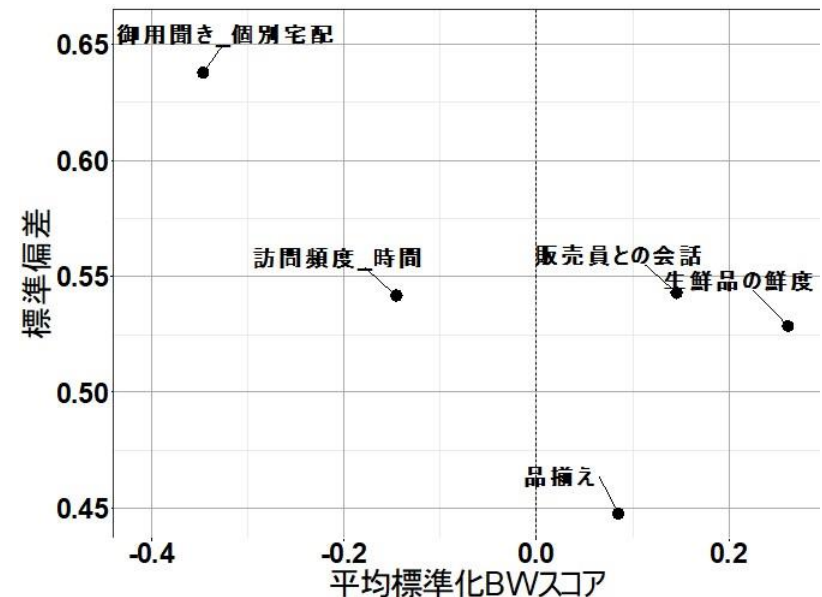
分析結果:

- 回答者数：195件（回答率：84.7%）
- 有効回答数：100件（移動販売サービスの未利用者等を除外）

- 「生鮮品の鮮度」が最も重要視：
- 「販売員との会話」が「品揃え」よりも重要視

高齢者は、移動販売利用時の会話に価値を感じている

- 軽視：
 - 「訪問頻度・時間」：
利用者が変更できない項目
 - 「御用聞き・個別訪問」：
選好のバラつき(個人差)が大きい



まとめと今後の課題

移動販売車の多面的機能評価

- 「販売員との会話」が「品揃え」よりも重視
⇒特に後期高齢者は、さらに重要視
- 独居世帯：御用聞き(日常生活の補助)が求められる

移動販売サービスが有する多面的機能：
「食」と「福祉」の両面から重要

【今後の課題】

- 買い物サービスが高齢者の福祉的機能を有することは把握
⇒ 福祉的機能の効果については不明確
- 移動販売サービスの維持・強化に向けた研究
⇒ 多面的機能の評価と現地住民の買い支え意識を醸成する方策の検討

全体のまとめと課題

• マクロな視点

- 食料品アクセス可視化の有効性と限界
- 食料安全保障の他要素との関連性の検討も必要

• ミクロな視点

- 高齢単身男性の食料品摂取の偏りが把握
- 買い物手段の充実と食生活（食品摂取の多様性）の関係性は不明慮

• ローカルな視点

- 移動販売車は、食料品供給だけでなく、福祉的機能も存在
- ビジネスとして成立させるための買い支え意識の醸成が課題

食料品アクセスは「物理的」側面だけでなく、「社会的」側面も考慮した
研究・政策立案が求められる

参考文献

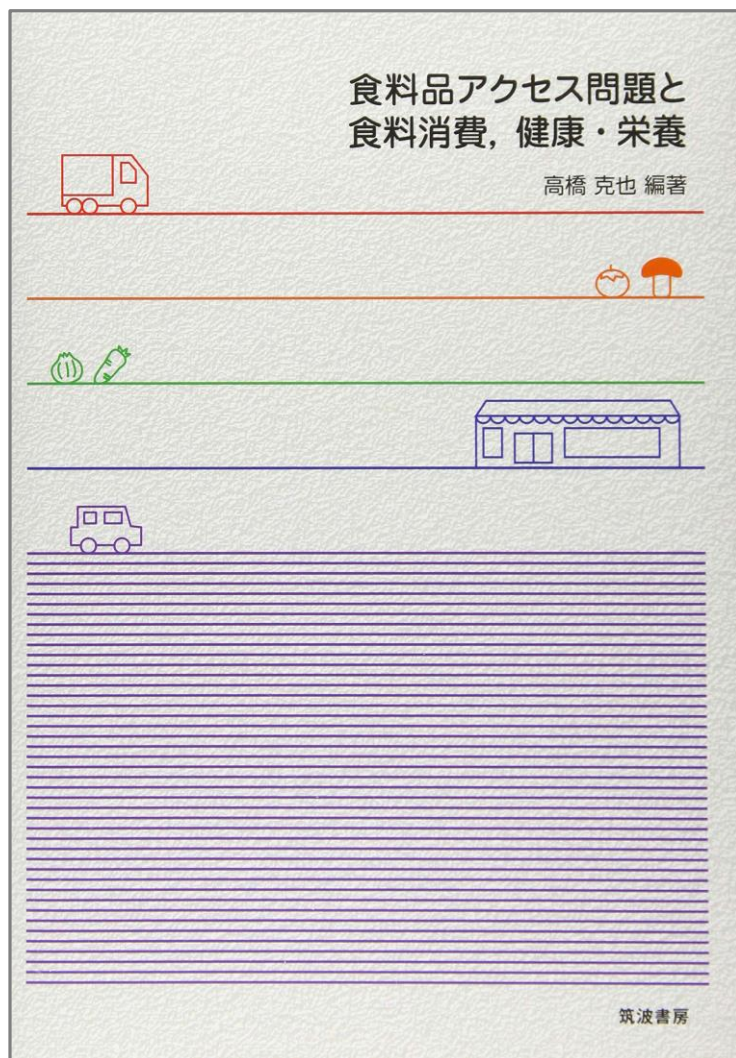
【外国語文献】

- Louviere, J. J., Flynn, T. N., & Marley, A. A. J. (2015) The BWS object case, in Louviere, J. J. ed., *Best-worst scaling: Theory, methods and applications*, Cambridge: Cambridge University Press, 14-55.

【日本語文献】

- 菊島良介, 高橋克也 (2018) 「食料品アクセス問題における買い物サービス利用が食品摂取の多様性に及ぼす影響—農林水産情報交流ネットワーク事業全国調査結果の分析—」『農林水産政策研究』(29) : 29-42.
- 高橋克也, 薬師寺哲郎 (2013) 「食料品アクセス問題の実態と市町村の対応—定量的接近と全国市町村意識調査による分析から—」『フードシステム研究』20(1) : 26-39.
- 谷本圭志ら (2015) 「中山間地域における移動販売サービスの顧客層に関する実証分析」『都市計画論文集』50(3) : 324-330.
- 薬師寺哲郎編 (2015) 『超高齢社会における食料品アクセス問題—買い物難民, 買い物弱者, フードデザート問題の解決に向けて—』ハーベスト社.

本調査には、日野町の町民の皆様ならびに日野町役場企画政策課の皆様の多大なるご協力の下で実施することができました。この場を借りて御礼申し上げます。



拙著、筑波書房(20年12月刊)

ありがとうございました。

※関連情報については

農林水産政策研究所Webサイト「食料品アクセスマップ」ページをご覧ください。

https://www.maff.go.jp/primaff/seika/fsc/faccess/a_map.html

(検索:食料品アクセスマップ)

お問い合わせ:katsuyat@affrc.go.jp